

2015年8月期業績 2016年8月期業績見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2015年8月期の業績、および
2016年8月期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 2015年8月期 決算概要	P3	～	P18
II. 2016年8月期 業績予想	P19	～	P21
III. ご参考資料	P22	～	P24

【業績開示について】

- ・2014年8月期末より国際会計基準(IFRS)を適用、本資料上の数字については、すべてIFRSベースで記載しております。
- ・事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。
- ・各セグメントの構成は、以下のとおりです。
 - 国内ユニクロ事業： 国内ユニクロ事業の数値が表示されています。
 - 海外ユニクロ事業： 海外で展開するユニクロ事業が含まれています。
 - グローバルブランド事業： ジューシー事業、セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、J Brand事業が含まれています。
- ・連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

【連結】2015年8月期実績

過去最高の業績を達成

	2014年8月期 通期実績	直近予想 (7/9)	2015年8月期		単位: 億円
			通期実績	前期比	
売上収益	13,829	16,500	16,817	+21.6%	
売上総利益 (売上比)	6,997 50.6%	-	8,485 50.5%	+21.3% ▲0.1p	
販管費 (売上比)	5,491 39.7%	-	6,718 39.9%	+22.3% +0.2p	
事業利益 (売上比)	1,505 10.9%	-	1,766 10.5%	+17.3% ▲0.4p	
その他収益・費用 (売上比)	▲201 -	-	▲122 -	-	
営業利益 (売上比)	1,304 9.4%	2,000 12.1%	1,644 9.8%	+26.1% +0.4p	
税引前利益 (売上比)	1,354 9.8%	2,115 12.8%	1,806 10.7%	+33.4% +0.9p	
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	745 5.4%	1,200 7.3%	1,100 6.5%	+47.6% +1.1p	

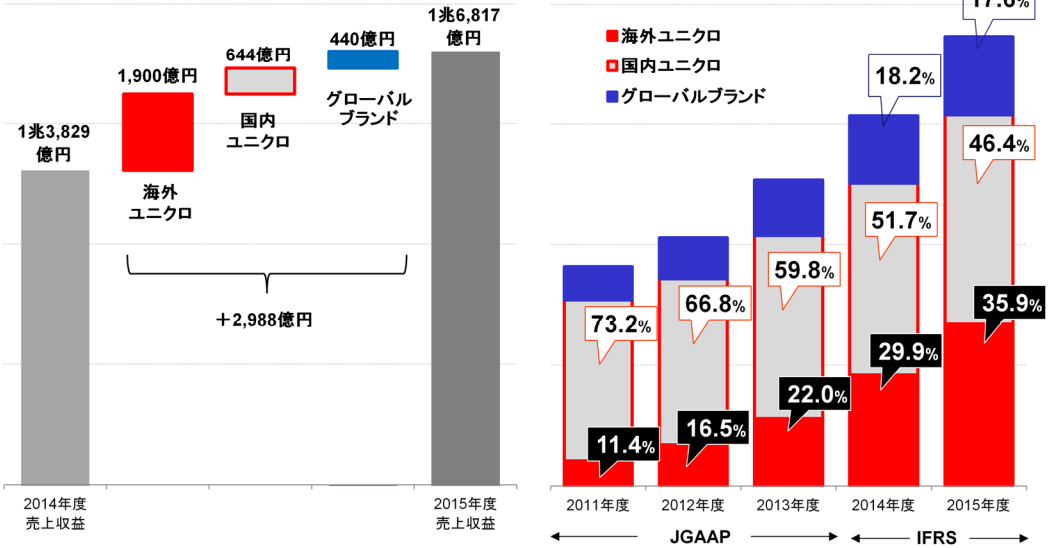
注: 事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。

2015年8月期の連結業績ですが、
 売上収益は1兆6,817億円、前期比21.6%増、
 営業利益は1,644億円、同26.1%増、
 税引前利益は1,806億円、同33.4%増、
 親会社の所有者に帰属する当期利益は1,100億円、同47.6%増と
 過去最高の業績を達成いたしました。
 ただし、7月9日に発表いたしました業績予想に対しては、
 営業利益は残念ながら未達に留まる結果となりました。

【連結】2015年8月期 売上収益

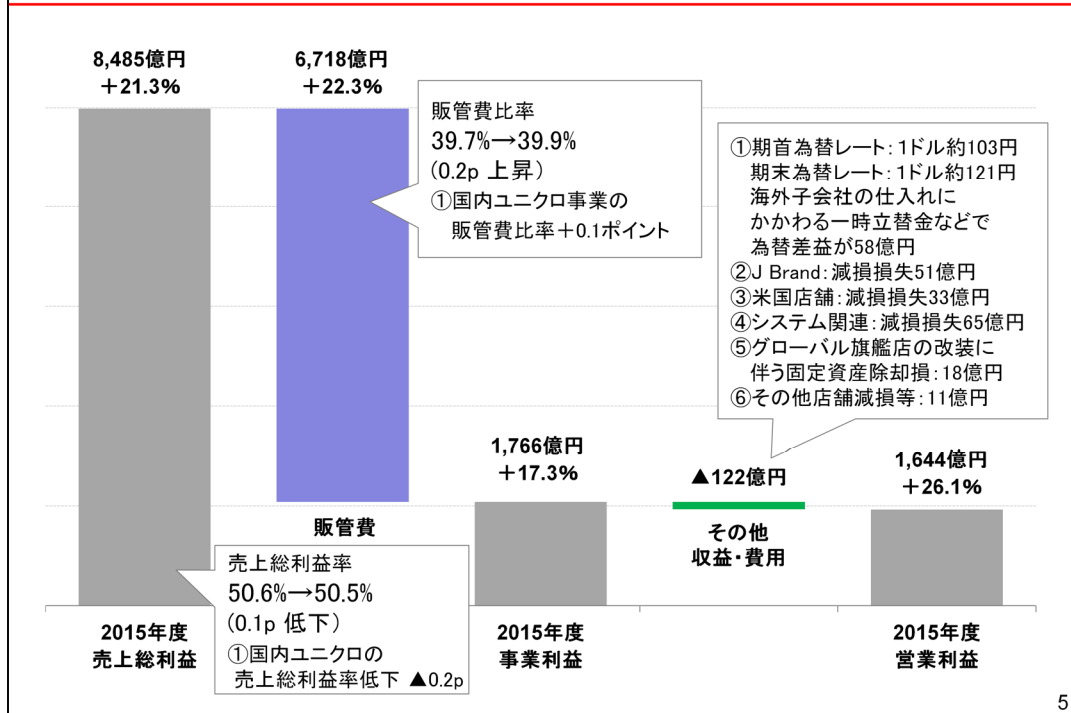
売上収益2,988億円の増収

海外ユニクロの売上構成比が拡大



まず、売上収益ですが、1兆6,817億円と前期比21.6%増、2,988億円の増収となりました。その内訳としては、海外ユニクロ事業が1,900億円の増収、国内ユニクロ事業が644億円の増収、グローバルブランド事業が440億円の増収となっております。

海外ユニクロ事業の売上構成比は35.9%と、前期比で6.0ポイント拡大いたしました。



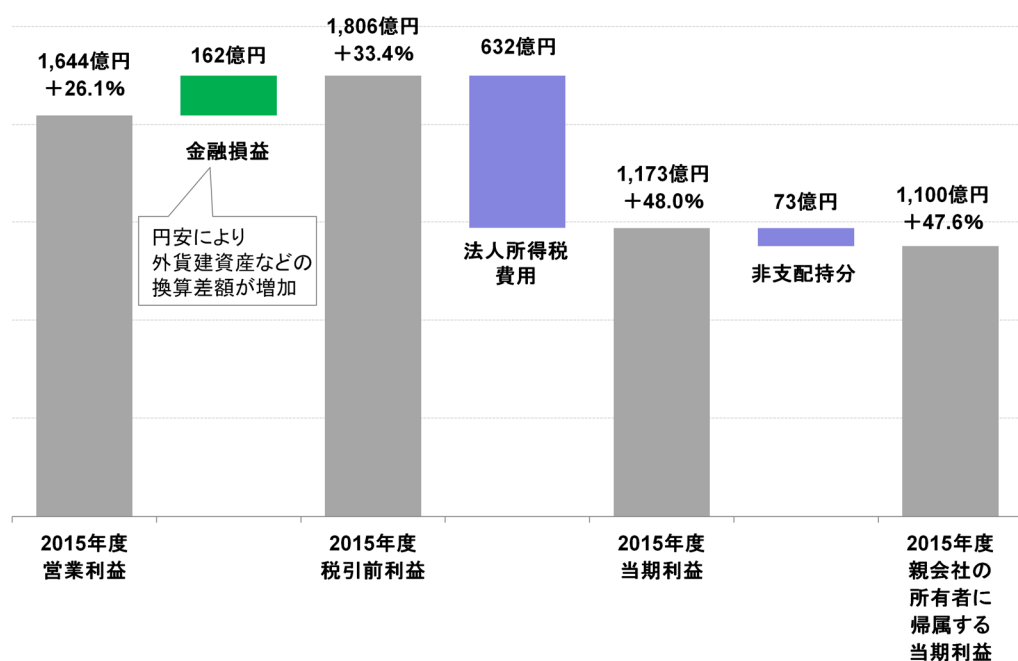
売上総利益は8,485億円と前期比21.3%増の増益となりました。売上総利益率は50.5%と、同0.1ポイント低下しております。これは主に、国内ユニクロ事業の売上総利益率が同0.2ポイント低下したためです。

販管費は6,718億円と同22.3%増となりました。売上販管費比率は39.9%と、同0.2ポイント上昇しております。これは主に国内ユニクロ事業で販管費比率が0.1ポイント上昇したことによります。

売上収益から売上原価、販管費を除いた事業利益は1,766億円と同17.3%増の増益となりました。

その他収益・費用の合計は122億円のマイナスとなりました。これは、為替レートが期首に比べ円安となったことにより、海外子会社の仕入れにかかわる一時立替金などで為替差益が58億円のプラス計上となった一方で、J Brandの減損損失51億円、米国店舗の減損損失33億円、システム関連の減損損失65億円、ロンドンや上海のグローバル旗艦店の改装に伴う固定資産除却損18億円、その他店舗減損等11億円がマイナス計上されたことによります。

これらの結果、営業利益は1,644億円、同26.1%増の増益となりました。



次に、金融損益ですが、為替が期首に比べ円安になったことから、外貨建資産などの換算差額が増え、金融損益はネットで162億円のプラスとなっております。

この結果、税引前利益は1,806億円と同33.4%増、親会社の所有者に帰属する当期利益は1,100億円、同47.6%増となりました。

	下振れ額	減損損失・除却損など		事業要因
合計	▲約356億円	▲約178億円		▲約178億円
国内ユニクロ	▲約100億円			4Qの売上、粗利益率が計画下振れ
海外ユニクロ	▲約90億円	▲51億円	米国の店舗減損 ▲33億円	米国の赤字幅拡大
			旗艦店の改装に伴う固定資産除却損 ▲18億円	東南アジア事業の下振れ
グローバルブランド	▲約75億円	▲62億円	J Brandの減損損失 ▲51億円	J Brandの赤字幅拡大
			セオリー、CDCの倉庫等の減損損失・売却損 ▲11億円	セオリー、CDCの業績下振れ
その他、調整額	▲約90億円	▲65億円	システム関連の減損損失 ▲65億円	FR単体の経費増

営業利益が直近予想2,000億円に対して約356億円下振れいたしました。その要因についてご説明いたします。下振れした内、約半分の約178億円が減損損失や除却損などによるもので、残り約178億円が事業要因によるものです。

まず、国内ユニクロ事業では、第4四半期の売上と粗利益率が計画を下回ったことで、営業利益が直近予想に対して約100億円下回りました。

海外ユニクロ事業では、米国店舗の減損損失33億円と、ロンドンや上海のグローバル旗艦店の改装に伴う固定資産除却損18億円の合計51億円を計上しております。これに加え、下期には米国事業の赤字幅が拡大したこと、東南アジア事業の業績が下振れたことで、海外ユニクロ事業の営業利益は直近予想に対して約90億円下回りました。

グローバルブランド事業では、J Brand事業の減損損失51億円と、セオリー事業およびコントワー・デ・コトニエ事業の倉庫などの減損損失や売却損11億円の合計62億円を計上しております。これに加え、J Brand 事業の赤字幅が拡大したこと、セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業の下期の業績が計画を下回り減益となったことから、グローバルブランド事業の営業利益は直近予想に対して約75億円下回りました。

このほか、その他、調整額が、直近予想に対し約90億円下回りました。これは、システム関連の減損損失65億円を計上したこと、ファーストリテイリング単体の経費が増加したことによります。システム関連の減損損失は、今後Eコマース事業を本格的に拡大するためのプラットフォームの刷新に伴うものです。

2015年8月期 セグメント別実績

		2014年8月期	2015年8月期	
		通期実績	通期実績	前期比
国内ユニクロ事業	売上収益	7,156	7,801	+9.0%
	事業損益 (売上比)	1,076 15.0%	1,156 14.8%	+7.5% ▲0.2p
	その他収益・費用	▲13	15	-
	営業損益 (売上比)	1,063 14.9%	1,172 15.0%	+10.3% +0.1p
海外ユニクロ事業	売上収益	4,136	6,036	+45.9%
	事業損益 (売上比)	338 8.2%	507 8.4%	+50.0% +0.2p
	その他収益・費用	▲8	▲73	-
	営業損益 (売上比)	329 8.0%	433 7.2%	+31.6% ▲0.8p
グローバルブランド事業	売上収益	2,512	2,953	+17.6%
	事業損益 (売上比)	163 6.5%	209 7.1%	+27.9% +0.6p
	その他収益・費用	▲205	▲65	-
	営業損益 (売上比)	▲41 -	144 4.9%	- -

単位: 億円

注: 連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。
国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。
事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。

8

セグメント別の業績は、こちらのスライドの通りです。

国内ユニクロ事業の売上収益は7,801億円、営業利益は1,172億円、
海外ユニクロ事業の売上収益は6,036億円、営業利益は433億円、
グローバルブランド事業の売上収益は2,953億円、営業利益は144億円と、
全セグメントで増収増益を達成いたしました。

過去最高の業績を達成

	2014年8月期 通期実績	2015年8月期		単位:億円
		通期実績	前期比	
売上収益 (売上比)	7,156 100.0%	7,801 100.0%	+9.0%	
売上総利益 (売上比)	3,524 49.3%	3,833 49.1%	+8.8% ▲0.2p	
販管費 (売上比)	2,448 34.2%	2,677 34.3%	+9.3% +0.1p	
事業利益 (売上比)	1,076 15.0%	1,156 14.8%	+7.5% ▲0.2p	
その他収益・費用 (売上比)	▲13 -0.2%	15 0.2%	- +0.4p	
営業利益 (売上比)	1,063 14.9%	1,172 15.0%	+10.3% +0.1p	

注: 国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

ここからは、国内ユニクロ事業についてご説明いたします。
通期では、売上収益は7,801億円、営業利益1,172億円と、
過去最高の業績を達成いたしました。

【国内ユニクロ事業】売上総利益率

2015年8月期: 売上総利益率 49.1% (前期比▲0.2p)

4Qの粗利益率が計画を大きく下回る

- ・上期は前期比1.8ポイントの改善、下期は同2.7ポイントの悪化
- ・下期は計画段階から春夏商品の一部をスポットの為替レートで調達した影響により原価率の上昇
- ・6月からの天候不順で夏物販売が苦戦。値引き販売を強化したこと、在庫処分を積極的に進めたため、4Qの粗利益率が計画を大きく下回る

	2014年8月期	2015年8月期	
		前期比	
通期	49.3%	49.1%	▲0.2p
上期	47.7%	49.5%	+1.8p
下期	51.3%	48.6%	▲2.7p

11

次に、売上総利益率ですが、通期で49.1%と前期比0.2ポイント低下いたしました。これは、計画に対しても若干下回る結果となっております。

上期の粗利益率は49.5%と、前期比1.8ポイントの改善となりましたが、下期では48.6%と同2.7ポイントの悪化となりました。

下期は計画段階から春夏商品の一部をスポットの為替レートで調達した影響により原価率の上昇を見込んでおりました。これに加え、6月からの天候不順で夏物販売が苦戦したこと、値引き販売を強化したことに加え、在庫処分も積極的に進めたことにより、第4四半期の粗利益率が計画より大きく下回る結果となりました。

【国内ユニクロ事業】販管費

2015年8月期：売上販管費比率 34.3%（前期比+0.1p）

金額、比率ともに計画を若干上回る

- ・人件費+0.4p: 4Qの売上が計画を下回ったことによる比率の上昇、地域正社員が増えた影響による、賞与などの人件費増
- ・その他経費+0.4p: 物流費や委託費の上昇
- ・広告宣伝費▲0.2p: 経費の見直しなど計画的に削減
- ・賃借料▲0.2p: 既存店売上高の好調により、効率が改善

	2014年8月期		2015年8月期		増減額		単位: 億円
	通期実績	(売上比)	通期実績	(売上比)		(売上比)	
販管費合計	2,448	34.2%	2,677	34.3%	+228	+0.1p	
人件費	743	10.4%	840	10.8%	+96	+0.4p	
広告宣伝費	346	4.8%	359	4.6%	+12	▲0.2p	
賃借料	508	7.1%	539	6.9%	+30	▲0.2p	
減価償却費	87	1.2%	74	1.0%	▲12	▲0.2p	
その他経費	762	10.7%	863	11.1%	+100	+0.4p	

売上販管費比率は34.3%と、前期比0.1ポイント上昇いたしました。これは金額、比率ともに計画を若干上回っております。

経費比率の内訳としては、人件費で0.4ポイント、その他経費で0.4ポイント増加している一方で、広告宣伝費で0.2ポイント、賃借料で0.2ポイント、減価償却費で0.2ポイント低下しております。

人件費比率の上昇は、主に、第4四半期3ヵ月間の売上が計画を下回ったことによる比率の上昇、地域正社員が増えた影響から賞与などの人件費が増加したことによります。

その他経費比率の上昇は、物流費や委託費が上昇したことによります。

広告宣伝費比率の低下は、経費の見直しなど計画的に削減しているものです。

賃借料率の低下は、既存店売上高が通期で増収となったことで、効率が改善されたためです。

大幅な増収増益

- ・グレーターチャイナ、韓国は大幅な増収増益を達成
- ・東南アジア・オセアニア事業は、出店が進む
- ・米国事業では、赤字幅が拡大、店舗の減損損失を計上
- ・欧州事業は、旗艦店の改装により減益も、計画を上回る
- ・海外ユニクロ事業の8月末の店舗数は798店舗、+165店舗

		2014年8月期 通期実績	2015年8月期		単位: 億円
			通期実績	前期比	
海外ユニクロ事業	売上収益	4,136	6,036	+45.9%	13
	事業増益	338	507	+50.0%	
	(売上比)	8.2%	8.4%	+0.2p	
	その他収益・費用	▲ 8	▲ 73	-	
	営業増益	329	433	+31.6%	
	(売上比)	8.0%	7.2%	▲0.8p	

次に、海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

通期の売上収益は6,036億円、営業利益は433億円と大幅な増収増益を達成いたしました。

グレーターチャイナ、韓国は大幅な増収増益と、海外ユニクロ事業全体の業績をけん引しております。

東南アジア事業では、下期の業績が計画を下回りました。東南アジア・オセアニア事業全体では出店が進み、同エリアの期末店舗数は108店舗に達しております。

米国事業では、赤字幅が拡大し、店舗の減損損失を計上いたしました。

欧州事業は、ロンドンのグローバル旗艦店の改装により減益となったものの、計画を上回りました。

海外ユニクロ事業の8月末の店舗数は798店舗に達し、前期末比で165店舗の純増となりました。

各エリアの業績トレンド

- ・**グレーターチャイナ：大幅な増収増益**
売上3,044億円+46.3%、営業利益386億円+66.1% * IFRSベース比較
 各エリアでの既存店売上高が増収と好調、新店の立ち上がりも順調
- ・**韓国：大幅な増収増益**
 既存店売上高の増収が継続、売上規模は1,000億円を突破
- ・**東南アジア：増収も、営業利益は計画を下回り、前年並み**
 春物販売の不調により、値引き販売を強化し、在庫処分を進めた
- ・**オーストラリア：計画を若干上回る、赤字幅は縮小**
 下期に秋冬物商品が順調な販売
- ・**米国：計画を下回り、赤字幅は拡大**
 年間+17店舗と急速に店舗数を増やしたこと、まだ米国で認知されていないことで、売上未達が続く、シーズン末に在庫処分を進めた結果、赤字幅は拡大
- ・**欧州：事業利益は増益、計画を若干上回る**
 グローバル旗艦店の改装閉店の影響により、固定資産除却損などを計上した結果、営業利益は減益も、事業利益は増益

14

次に、各エリアの業績トレンドについてご説明いたします。

中国、香港、台湾といったグレーターチャイナの売上は3,044億円、前期比46.3%増、営業利益は386億円、同66.1%増と、大幅な増収増益となりました。

各エリアでの既存店売上高が増収と好調だったことに加え、新店の立ち上がりも順調で、大幅な増収増益を達成し、営業利益率も改善いたしました。8月末のグレーターチャイナの店舗数は467店舗に達しております。

韓国でも、既存店売上高の増収が続き、大幅な増収増益を達成し、売上規模は1,000億円を突破いたしました。8月末の店舗数は155店舗に達しております。

シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシアといった

東南アジア地区では、増収となりましたが、営業利益は計画を下回り、前年並みの水準に留まりました。これは、春物販売の不調により、値引き販売を強化し、在庫処分を進めたことによります。8月末の店舗数は102店舗に達しております。

オーストラリアは、下期において、秋冬物商品の販売が順調だったことから、計画を若干上回る業績を達成し、赤字幅は縮小いたしました。8月末の店舗数は6店舗となっております。

米国事業は、計画を下回り、赤字幅は拡大いたしました。

米国は、年間の出店数が17店舗と急速に店舗数を増やしたこと、ユニクロのブランドがまだ米国で認知されていないことで、売上未達が続く、シーズン末に在庫処分を進めた結果、赤字幅は拡大する結果となっております。8月末の店舗数は42店舗となっております。

英国、フランス、ロシア、ドイツといった欧州では、ロンドンのグローバル旗艦店の311オックスフォードストリート店が3月から改装で閉店している影響により固定資産除却損などを計上した結果、営業利益は減益となったものの、事業利益は増益、計画に対しては若干上回る業績となりました。8月末の店舗数は26店舗となっております。

増収増益

- ・ジーユー事業：計画を上回る好調な業績を達成
売上1,415億円+31.6%、営業利益164億円+174.9% * IFRSベース比較
 好調な業績の背景は、トレンドを捉えた商品企画力により幅広い年代へ顧客層が拡大柔軟な増産への対応
- ・セオリー事業：増収も、営業利益は計画を下回り減益
 米国はラグジュアリー市場の不調により、計画を下回り減益
- ・コントワー・デ・コトニエ事業：計画を若干下回り、減益
- ・プリンセス タム・タム事業：ほぼ計画通り前年並み
- ・J Brand事業：赤字幅が若干拡大、減損損失51億円を計上

		2014年8月期	2015年8月期		単位：億円
		通期実績	通期実績	前期比	
グローバルブランド 事業	売上収益	2,512	2,953	+17.6%	
	事業損益	163	209	+27.9%	
	(売上比)	6.5%	7.1%	+0.6p	
	その他収益・費用	▲205	▲65	-	
	営業損益	▲41	144	-	
	(売上比)	-	4.9%	-	

15

グローバルブランド事業の売上収益は2,953億円、営業利益は144億円と増収増益となりました。

ジーユー事業の売上は1,415億円、前期比31.6%増、営業利益は164億円、前期比174.9%増、計画を上回る大幅な増収増益を達成いたしました。好調な業績の背景としては、ガウチョパンツなどのトレンドを捉えた商品企画力により若年層に限らず幅広い年代へ顧客層が拡大したこと、柔軟な増産への対応が挙げられます。8月末の店舗数は、国内で314店舗、海外で5店舗に拡大しております。

セオリー事業は、増収となったものの、営業利益は計画を下回り減益となりました。日本のセオリー事業はほぼ前年並みの業績となったものの、米国のセオリー事業はラグジュアリー市場の不調により売上、利益ともに計画を下回り、減益の結果となりました。

コントワー・デ・コトニエ事業は、売上は前年並み、営業利益は計画を若干下回り、減益の結果となりました。

プリンセス タム・タム事業は、ほぼ計画通り前年並みの業績となっております。

J Brand事業は米国におけるプレミアムデニム市場の不振の影響を受け、計画を下回り、赤字幅が拡大したため、減損損失51億円を計上しております。

【連結】2015年8月末 B/S

単位：億円

	2014年8月末	2015年8月末	増 減
資産合計	9,923	11,637	+1,713
流動資産	7,170	8,743	+1,573
非流動資産	2,752	2,893	+140
負債合計	3,562	3,889	+326
資本合計	6,360	7,748	+1,387

16

次に2015年8月末のバランスシートのご説明をいたします。

資産合計は1兆1,637億円と、前期末比1,713億円増加いたしました。これは、流動資産が同1,573億円増加したこと、および非流動資産が同140億円増加したためです。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

【連結】B/Sのポイント(前年同期末比)

流動資産の増加 +1,573億円(7,170億円⇒8,743億円)

- ・現金及び現金同等物の増加: +411億円(3,140億円⇒3,552億円)
- ・たな卸資産の増加: +367億円(2,232億円⇒2,600億円)
 - 【国内UQ】▲56億円
 - 【海外UQ】+341億円 店舗数が165店舗増加
 - 【グローバルブランド】+82億円 ジューシー事業、セオリー事業の事業拡大による在庫増
- ・デリバティブ金融資産: +583億円(資産991億円⇒1,574億円)
 - 国内ユニクロなどでは、8月末の為替レートが保有する為替予約の平均レートより円安となり、その乖離が拡大したため、前年同期末に比べ583億円増加。
 - ヘッジ会計を適用していることから、損益への影響はない

非流動資産の増加 +140億円(2,752億円⇒2,893億円)

- ・有形固定資産の増加: +149億円(1,143億円⇒1,293億円)
 - 【海外UQ】店舗数が165店舗増加 【グローバルブランド】店舗数が71店舗増加
- ・無形資産の減少: ▲55億円(736億円⇒681億円)
 - 【グローバルブランド】J Brand事業の減損損失を計上 【FR単体】システムの減損損失を計上

17

まず、流動資産が1,573億円増加した要因をご説明いたします。
現金及び現金同等物は3,552億円と、前期末比で411億円増加いたしました。これは、ユニクロ事業をはじめとする各事業の営業キャッシュフローが増加したことによります。

たな卸資産は2,600億円と、前期末比367億円増加しております。
国内ユニクロ事業の在庫は、同56億円減少いたしました。
海外ユニクロ事業の在庫は、同341億円増加いたしました。
これは、8月末の店舗数が、前期末比で165店舗増えたことによります。
グローバルブランド事業の在庫は、同82億円増加しております。これは、ジューシー事業、セオリー事業の事業拡大に伴って在庫が増加したことによります。

デリバティブ金融資産は、資産側で1,574億円となりました。国内ユニクロ事業などでは、長期的なヘッジ方針に従って為替予約を行っております。8月末の為替レートが、保有する為替予約の平均レートより円安となり、その乖離が拡大したため、前期末に比べ583億円増加いたしました。
なお、ヘッジ会計を適用していることから、損益への影響はありません。

非流動資産は、前期末比で140億円増加しております。
これは、海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業で店舗数がそれぞれ同165店舗、71店舗増加したことにより有形固定資産が同149億円増加したことによります。一方で、無形資産は、期末にJ Brandなどの減損損失を計上したことにより、55億円減少いたしました。

【連結】2015年8月期キャッシュ・フロー

単位：億円

	2014年8月期 実績	2015年8月期 実績	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	+1,105	+1,349	
税引前利益	+1,354	+1,806	ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献
減価償却費およびその他の償却費	+308	+377	
減損損失	+239	+161	2014年8月期：J Brand、店舗の減損損失239億円 2015年8月期：システム関連、J Brand、店舗等の減損損失161億円
運転資金の増減額	▲426	▲439	
法人税等の支払・還付	▲555	▲708	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲563	▲731	
定期預金の増減額(▲は増加)	▲21	▲161	一時的に3か月超の定期預金が増加
有形固定資産の取得による支出	▲414	▲446	旗艦店や出店拡大に伴う投資
無形資産の取得による支出	▲75	▲65	システム投資など
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲440	▲417	
配当金の支払額	▲305	▲331	一株当たり期末配当金150円、 中間配当金175円の支払い
現金及び現金同等物に係る換算差額	+71	+211	
現金及び現金同等物の増加額	+173	+411	
現金及び現金同等物 期首残高	2,967	3,140	
現金及び現金同等物 期末残高	3,140	3,552	

18

次に、2015年8月期のキャッシュ・フローについてご説明いたします。

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,349億円の収入となりました。これは、ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献が1,806億円と収入が増加したことによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは731億円の支出となりました。支出の主な内訳としては、定期預金で161億円、有形固定資産の取得で446億円、システム投資などによる無形資産の取得で65億円となっております。なお、定期預金の支出の増加は一時的に3ヶ月超の定期預金が増加したため、実質的には流動性が高い資金と言えます。

なお、2015年8月期の設備投資は624億円、内訳としては、国内ユニクロ事業で86億円、海外ユニクロ事業で377億円、グローバルブランド事業で89億円、システム投資などで71億円となっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、417億円の支出となりました。主な内訳としては、配当金の支払額331億円の支出となっております。

以上の結果、2015年8月末における現金及び現金同等物の期末残高は3,552億円となりました。

【連結】2016年8月期予想 通期業績

売上収益 : 1兆9,000億円 前期比 +13.0%
営業利益 : 2,000億円 前期比 +21.6%
 親会社の所有者に
 帰属する当期利益 : 1,150億円 前期比 +4.5%

	2015年8月期	2016年8月期	
	通期実績	通期予想	前期比
売上収益 (売上比)	16,817 100.0%	19,000 100.0%	+13.0%
営業利益 (売上比)	1,644 9.8%	2,000 10.5%	+21.6% +0.7p
税引前利益 (売上比)	1,806 10.7%	2,000 10.5%	+10.7% ▲0.2p
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	1,100 6.5%	1,150 6.1%	+4.5% ▲0.4p

単位: 億円

19

ここからは、2016年8月期の通期業績予想につきまして、ご説明いたします。
 売上収益は1兆9,000億円、前期比13.0%増、
 営業利益は2,000億円、同21.6%増、
 親会社の所有者に帰属する当期利益は1,150億円、
 同4.5%増を見込んでおります。
 なお、営業利益の増益率に比べ、親会社の所有者に帰属する当期利益の
 増益率が低い理由は、前期は金融損益162億円が発生しておりますが、
 今期は予想数字にこれを見込んでいないためです。

国内ユニクロ事業:増収増益

- ・既存店売上高は約4.0%増を見込み、売上収益は増収の見込む
- ・営業利益は増益の予想、営業利益率はほぼ横ばい

海外ユニクロ事業:大幅な増収増益

- ・出店数は約175店舗、
- ・営業利益は大幅な増益、営業利益率は若干の改善を見込む
- ・米国事業は新規出店を抑え、Eコマース事業を拡大、赤字幅を大幅に改善

グローバルブランド事業:増収増益

- ・ジーユー事業は、国内外合わせて約50店舗の出店、引き続き大幅な増収増益
- ・セオリー事業などのアフォーダブルラグジュアリーのブランドは収益の改善を見込む

海外ユニクロ事業 出店予想		グローバルブランド 出店予想	
グレーターチャイナ	約100店舗	GU事業	約50店舗
韓国	約20店舗	セオリー事業	約25店舗
東南アジア・オセアニア地区	約40店舗	CDC	約5店舗
米国	約5店舗	合計	約80店舗
欧州	約10店舗		
合計	約175店舗		

次に、各事業の業績トレンドを申し上げます。

まず、国内ユニクロ事業ですが、増収増益を予想しております。
既存店売上高は、約4.0%の増収、売上収益は増収、営業利益は増益、
営業利益率はほぼ横ばいを見込んでおります。

海外ユニクロ事業は大幅な増収増益を予想しております。
出店数は約175店舗、その内訳としては、グレーターチャイナで約100店舗、
韓国で約20店舗、東南アジア・オセアニア地区で約40店舗、米国で約5店舗、
欧州で約10店舗を見込んでおります。
海外ユニクロ事業の営業利益は大幅な増益、営業利益率は若干の改善を
見込んでおります。
なお、米国事業は新規出店を抑え、Eコマース事業を拡大することで
赤字幅を大幅に改善させたいと考えております。

グローバルブランド事業も、増収増益を予想しております。
ジーユー事業は、国内外合わせて約50店舗の出店を見込み、
引き続き大幅な増収増益を見込んでおります。
セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、J Brand事業などの
アフォーダブルラグジュアリーのブランドは収益の改善を見込んでおります。

2016年8月期 配当金予想

2015年8月期 年間配当金 350円を見込
2016年8月期 年間配当金 370円を予定

	1株当たり配当金		
	中間	期末	通期
2014年8月期	150円	150円	300円
2015年8月期 ※1	175円	175円	350円
2016年8月期(予想) ※2	185円	185円	370円

※1 2015年8月期の期末配当金は、2015年11月4日開催予定の当社取締役会での決議を前提としています。

※2 業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、期末配当金額を変更することがあります。

最後に、配当金についてご説明させていただきます。

2015年8月期の配当金は、期末配当金175円を含み、1株当たりの年間配当金350円を見込んでおります。

2016年8月期の配当金につきましては、中間配当金185円、期末配当金185円、あわせて年間で370円を予定しております。以上で、私からの説明を終わります。ありがとうございました。

連結対象会社別出退店 実績

【単位：店舗】	14年8月期	2015年8月期 (2014/9~2015/8)			
	期末	出店	退店	純増	期末
ユニクロ事業合計	1,485	227	73	+154	1,639
国内ユニクロ事業：※	852	45	56	▲11	841
直営店	831	36	56	▲20	811
大型店	199	15	6	+9	208
標準店等	632	21	50	▲29	603
フランチャイズ	21	9	0	+9	30
海外ユニクロ事業：	633	182	17	+165	798
中国	306	91	10	+81	387
香港	22	4	1	+3	25
台湾	46	9	0	+9	55
韓国	133	26	4	+22	155
シンガポール	18	5	0	+5	23
マレーシア	21	4	0	+4	25
タイ	20	4	1	+3	23
フィリピン	16	7	0	+7	23
インドネシア	4	4	0	+4	8
オーストラリア	1	5	0	+5	6
米国	25	17	0	+17	42
英国	10	0	1	▲1	9
フランス	6	2	0	+2	8
ロシア	4	4	0	+4	8
ドイツ	1	0	0	0	1
グローバルブランド事業	1,268	132	61	+71	1,339
ジーユー事業	276	60	17	+43	319
セオリー事業※	460	63	19	+44	504
コントワー・デ・コトニエ事業※	374	9	15	▲6	368
プリンセス・タム・タム事業※	152	0	7	▲7	145
J Brand	6	0	3	▲3	3
総 合 計	2,753	359	134	+225	2,978

注：ミーナ事業、グラミンユニクロ事業の店舗は含まない

※フランチャイズ店を含む

連結対象会社別出退店 予想

【単位：店舗】	15年8月期 期末	2016年8月期 予想			
		出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1,639	215	50	+165	1,804
国内ユニクロ事業： ※	841	40	35	+5	846
海外ユニクロ事業	798	175	15	+160	958
グローバルブランド事業 ※	1,339	80	50	+30	1,369
総 合 計	2,978	295	100	+195	3,173

注：ミーナ事業、グラミンユニクロ事業の店舗は含まない ※フランチャイズ店を含む

為替レート、設備投資、減価償却費

適用為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2014年8月期 通期(12ヶ月平均)	101.5	138.2	167.5	16.5	9.6
2015年8月期 通期(12ヶ月平均)	117.3	137.1	183.1	18.9	10.7
2016年8月期 通期予想レート ※	120.0	132.0	183.5	19.2	11.1

※期の平均レートで、スポットレートではありません。

設備投資 減価償却費

単位：億円

	設備投資	減価償却費
2014年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	588	308
2015年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	624	377
2016年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	640	403

設備投資内訳

2015年8月期 通期実績： 国内ユニクロ 86億円、海外ユニクロ 377億円、グローバルブランド事業 89億円、システム他 71億円

2016年8月期 通期予想： 国内ユニクロ 42億円、海外ユニクロ 367億円、グローバルブランド事業 118億円、システム他 113億円